

蓬萊町だより

第二十号
昭和63年12月20日
発行者 蓬萊町会
編集者 文化 部

蓬萊町界限（その十七）

町名・区名のごとも

林 順 信

◇今から百六十年前に生まれた町名

この「蓬萊町だより」も号を重ねること二十回になった。今回はこの会報の名の起りである蓬萊町の由来などについて一通り整理して置きたいと思う。

蓬萊町という町名は正式には駒込蓬萊町というもので、つい先頃昭和三十七年に施行された悪名高き「住居表示に関する法律」のうき目に会って、向丘一丁目なんて愚にもつかない町名というよりか、これが住居表示というものらしいが、これに変更させられるまで、私が育った町の名前として厳然として存在していた。さればこそ、現在に至るも一まとまりの町会があり、冠婚葬祭一切に關してお世話を頂いているわけであり、その名も蓬萊町会なのである。「住居表示」などという曖昧な呼称にだまされて、我

々は余りにも無関心無知であり過ぎた。これが「町名変更」と来たら、幾十倍もの猛反対が巻き起ったであろうに、住居表示は別に符号と番号が割りふられて、町名そのものには影響があるとは夢にも思わなかったのは、悔いを千載に残すの代表格みたいなものとなってしまった。

お役人は提唱した人はどっくの昔に移動してしまつて、施行する人は全く別の人間がやっているから始末が悪い。地名だの町名は、長い時間の中に自然発生的に芽生えた、我々故里のいわば文化的所産物だから、机の上の思い付きで簡単に片付けられたら、たまつたものではない。その後、総理府からも「みだりやたらに町名を変えない様に：」のおふれが出たから、なおさら腹が立つ。遅れていた新宿区内の四谷とか牛込辺には、古い町名が沢山残っている。どうせおやりになるのなら、最後までとことんおやりになつて欲しかった。我々はお上が考えている程記憶力は悪くはなく、旧町名も新住居表示も二通りも言えるのだから、最初から改める必要なんかなかった。番号のふりかえりだけ改めれば正解だった筈だ。

閑話休題。蓬萊町の町名は、明治五年二月に誕生したから、今から百十六年前のことになる。およそ明治のことを調べるのにひとく『風俗画報』の臨時増刊に、「新撰東京名所図会」本郷区之部というのがある。それによると、

「駒込蓬萊町◎位置及地勢
南は駒込追分町に接し、東は駒込千駄木町、同林町に隣り、北は駒込浅嘉町に面し、東は浅嘉町、肴町、追分町に界す、地勢高燥平担なり、番地は一より七十三に至る。

◎町名の起源沿革
駒込蓬萊町は、元文年間（一七三六〜四〇年）町屋を設け、隣地の寺院四箇寺（瑞泰寺、清林寺、栄松院、光源寺）と相對するに因り四軒寺町と稱せり、明治五年二月浅嘉町の内及び高林寺門前其他の寺地を合し、將來の繁榮を祝して此称に改め、十三年駒込行町分の内及び下駒込村の内を併す」とある。

この蓬萊というのは、中国の伝説の蓬萊山から出たもので、東の海にあって仙人が住むという山で、縁起のよいところとされている。蓬萊の音が宝米にも通するので、本郷以外でも例えば函館市にも蓬萊町（現在は宝来町に改正）が戦前はあった。私の小学校下級生時代は、通信簿に自分の住所を自分で書く欄があった。蓬萊町の字のところが大きくふくらんで、難しい漢字に閉口した覚えがある。

戦前には現在よりも多く、実に十八寺が町内にあって、その面積は町全体の八〇%にも及んだ。

蓬萊町界限では、町としては浅嘉町が最も古く、天和年間（一六八一〜四年）に町屋が開け

ているが、それに次いで肴町が元文二年（一七三七年）に町屋が開けた。この二つは共に奥州岩槻街道沿いで道路も幅濶している要地であったから当然だった。しかし、駿河台から明暦三年（一六五七年）に移籍して来た高林寺の門前は早くも寛文年間（一六六一〜七三年）に町屋を開いたというから、明治五年二月から蓬萊町になった範囲としては最も早く開けたのが、現在の駒本小学校界隈ということになる。

◎ほとんとは町奉行支配の外だった

江戸の治安維持は、江戸を朱引内と朱引外に分けて、江戸凶の上にその範囲を朱で線引きをしたのでこう呼ばれた。朱引は年代によって何度も引き直され、幕末にはかなりの範囲まで拡大されてはいたが、大体において、旧十五区の範囲内が朱引内であった。

朱印内は江戸の南と北の町奉行所が月交代で取り縮まっていた。「町方支配」といわれるもので、朱引外は「地方支配（じかたしはい）」とって、關東郡代支配の範囲であった。もともと蓬萊町の八割を占める寺院は別格で寺社奉行支配地であったから、他の奉行は手のほどし様がなかった、蓬萊町の界限では、高林寺門前だけが、町方支配となっていて、他は地方支配地であった。奥州岩槻街道も両側の追分町や肴町は町方支配だったのに、東側の蓬萊町側は地方支配だった。

このことが、明治初期の大区制の時代になって、両者を分ける結果となっていた。少くとも明治十一年十一月二日に、十五区制が誕生して、本郷区となるまでは、同じ蓬萊町の中でも属する大区が二通りあった。その間の出来ごとを簡単に整理すると左のようになる。

慶応4年4月11日 江戸城開けわたし

慶応4年7月17日 江戸を称して東京（とうけい）と改む。

明治1年9月2日 東京府開庁 旧朱引内

明治2年初頭 郡代代官支配地を武蔵県とし武蔵県知事が治めた。

明治2年初頭 新たに品川県、小菅県、太

宮県、浦和県など試行錯誤の課程で生まれる。

明治2年2月 朱引内を五十番組に

朱引外を地方五番組に合計

五十五番組で治める。

この時蓬萊町はほとんどが

地方三番組に属した。

朱引内五十番組を解体して

第一〜第六大区制となる。

明治4年6月18日 この時本郷区のひとつは

第四大区に属した。蓬萊町

のひとつははまだ地方三番組

組だった。

明治4年11月 朱引外を第七〜十二大区に分

ける。この時、蓬萊町が第九大区第三小区になる。高林寺門前は第四大区第七小区となっていた。

明治11年11月2日 本郷区駒込蓬萊町となる。

昭和7年10月1日 旧十五区の他に新たに二十区

が誕生して、大東京三十五区

制となる。

昭和18年7月1日 東京都制となる。

昭和22年3月 東京の区制改革で文京区とな

る。

明治維新後のトライ・アンド・エラーの結果

実に目まぐるしいまでに区の行政区画が変化し

た。第四大区は、「だいいんたいく」ではなく

「だいいたいく」と呼ぶ。当時は消防も警察も

学校も、この大区制の単位であったから、本郷

消防署は、阪本・愛宕・麴町・下谷・深川と共

に市内六つの方面本部の一翼だったし、第四大

区第一番小学としては湯島小学校が市内の六つ

の古い小学校と共に開校されていた。現在の鶯

頭の半天の白い線は、その当時のまをを残して

いる。即ち、神田・日本橋・新橋までは第一区

で白い太い横線一本、芝から品川までは第二区

だから二年、麴町・四谷辺は第三区、本郷・根

津は大四区（現在は麴込蓬萊町、千駄木町辺は

第四区三番組として編入されている）下谷・浅

草は第五区、そして本所深川は第六区として六

本の白線が入っている。奇数は直線、偶数は波線となっている。

本郷区ときまるまでは、湯島区や駒込区とか小日向区だとかの候補名があった。湯島という地名は最も古く武蔵国の豊島郡の六つの古名の一つで、本郷というのは、湯島の中の湯島本郷といふべきところの位置づけにあったから、(源順著「和名類聚鈔」九三五年頃成立した日本初の辞典に出て来る)本当なら湯島区駒込蓬萊町となるべきところだったかも知れない。今回は第二十号なので、少しきたい記事となったことを御許しいただきたい。

町会活動の概要

昭和63年7月上旬から11月中旬まで

総務部

6月29日 文京区役所主催により町単位の広報活動のあり方について研修会が開催され、当町会から役員二名参加致しました。

10月1日 区役所の委嘱を受け「住宅調査」に役員二名、調査員を担当。

10月5日 営団地下鉄7号線新設工事による駅舎誘致のため、「本駒込駅対策協議会」発足、本月初会合が行われました。

(3) 10月31日 「区政を語る集い」に高島町会長、出席。

役員の一部交代について

南部、退任 赤木靖明氏、新任 小川義展氏

防犯部

10月11～20日 「全国秋の防犯運動旬間」が実施されました。

防火防災部

8月17日 文京区総合防災訓練が区役所主催により六義園で実施されました。

9月1日 防災の日 8月

8月30～9月5日 防災週間

不慮の災害に備えて、いつ何時でも動ぜずに行動が出来るような心の準備が必要です。

「みんなを守ろう、わが家、わが町」

11月3日 青年部のお骨折りによりまして、町会主催による「防火防災訓練」を実施する運びとなり、向丘高校校庭をお借りして区役所・消防署・警察署・本部消防団のご指導によりまして、町内の皆様に初期消火、応急手当の方法など災害時に役立つ事を学んで戴きました。

11月26～12月5日 「全国秋の火災予防運動」運動期間中に当たる12月4日(日)文京六中校庭において、区役所の主催により「昭和63年度本郷地区防災訓練コンクール」が午前9時～11時20分まで行われますので、町内皆様も奮

ってご参加下さい。

交通部

9月21～30日 「全国交通安全運動旬間」当期間中は警察署の交通安全キャンペーンに参加するほか、交通部・婦人部の皆さんが街頭において交通指導にあたりました。

青年部

10月 みじかなもので造れる「工作教室」を催しました。

11月3日 青年部企画による防災訓練に多数参加戴きありがとうございました。

婦人部

10月26日 共同募金に際しましては、町内皆様の温かいご厚志を賜りまして左記の金円を納付致しましたのでご報告いたします。

一金 一六四、五〇〇円也

計報

当町会にお住まいの方で、7月から11月までの間に逝去された方々のお名前は左記のとおりでございます。

謹んでお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

梶原駿様、清水正寿様、堀江ユキ様、鈴木正男様

昭和 6 3 年根津神社祭礼
蓬萊町町会祭礼会計報告

収		人	支		出
前期繰越	普通預金	227,952	設 営 関 係 費		392,785
	定期預金	221,076	渡 御 関 係 費		980,980
受取利息	6 2 年分	7,704	奉 納 関 係 費		232,600
	6 3 年分	478	寄 付 金 費 関 係		135,500
寄 付 金	御神酒所	1,163,000	備 品 保 存 関 係 費		67,200
	御仮屋所	880,000	雑 費		59,034
	常 瑞 寺	10,000	修 理 費 積 立 金 5 9 年 分		200,000
	鉢洗会費	20,000		6 1 年 分	200,000
				6 3 年 分	200,000
			次 期 繰 越 金		62,111
		2,530,210			2,530,210

御神酒所 担当 会計	神 保 三 郎 ㊦
"	堀 江 頼 治 ㊦
御 仮 屋 担 当 会 計	竹 中 一 馬 ㊦
"	高 橋 一 郎 ㊦
"	橋 本 明 昭 ㊦
祭 礼 総 会 計	猪 熊 良 晃 ㊦
	加 藤 軾 美 ㊦

編 集 部

本年の根津神社御祭礼に際しましては町内の皆様方より多額の御寄贈を賜りまして、連日二日好天にも恵まれ、盛大な祭礼を催す事ができました。

れは一重に町内皆様のご厚情の賜物と感謝致しております。

誠にありがとうございました。

本号をお配り出来る頃は師走に入って、なにかと皆様にはお忙しい時期と存じますが、寒さ益々厳しき折、ご自愛專一に新しい年をお迎え下さい。

編集委員

小林音吉、竹中一馬、高橋一郎、猪熊良晃、池田 暉。